

ずいそう

ワンコのいる人生 (ペットから家族へ)



宮崎 弘樹

私が中学生の時から実家でワンコを飼い始めて今のワンコは4代目になります。その影響もあり、いつかは私も家庭にワンコと暮らせる日を望み考えていました。丁度、新居がペットと一緒に暮らせる環境となり念願のワンコを迎え入れる条件ができたので、ペットショップに通い一目惚れした子犬を、一時的な感情ではない事を自問自答繰り返し、覚悟を決め決断しました。その時の私はペットショップの店員さんから見れば、いつも同じ子犬をガラス越しに見て、子犬に話しかけ半落ち状態の私が優柔不断に見えていたのでしょう。それに対して家族は驚きました。私は考えに考え覚悟を決め決断しましたが、家族には相談すること無くペットショップからお試しのお泊り預かりという条件で連れて帰ったものですから。でも子犬の愛くるしさに反対する意見も出ず、半ば私の強引でもありましたが、ワンコとの暮らしが始まりました。私はワンコのいる暮らしが学生の時ありましたが、妻と子供は初めての体験でした。私はある程度は想像と覚悟は出来ていましたが、それでも室内飼いは初めてだったので想定外の事は多くありました。妻と子供はそれ以上に大変だったと思います。好奇心旺盛でよく頃合いのいい物は嘔じられたりしました。遊びに夢中になり、せっかく覚えたトイレに帰れず間に合わずカーペットを汚してしまい、その度に家族は大慌て、遊んでほしいの表現を甘噛で表現しているのですが、子犬の歯は尖っていて痛いので手に傷も出来ることがよくありま

した。いつの間にか子犬中心の生活になり自然と家族との会話も増えて来ました。現在ワンコを迎えて4年になりますが、少し嘔じられた食卓椅子の脚、ファスナーの開け締めの手で持つ所が曲がっているのも当時は必死だったので、もう、またやられたくらいの感じでしたが、今見ると懐かしく微笑ましいものになりました。子育てと同じく後悔が多くて、もっとこうしてやれば良かった、優しく説き解いて導いてやればと思いますが、当時は余裕が無く今は落ち着いたワンコをみてその分優しく撫でてやっています。ワンコと一緒に暮らし始めてからワンコの特性、性格もわかってきました。犬種、個体によっては違いはあると思いますが、我が家のワンコで説明しますと、共同生活を送るために常に周りをよく見えています。自分の置かれている環境、触れ合う人たちの様子、顔色まで見えています。人の言っていることもわかっているようで、単語レベルではかなり理解しているように思います。特に口調とか表情はよく察しているようです。あまり不安にさせないように私自身慌てること無く、接しているときは自分自身落ち着けるように心がけています。他にも気付かさせられる事もありまた多くの人との出会いも経験させてもらいます。ワンコと散歩をしているとよく話しかけられます。同じくワンコを散歩している人を始め犬好き動物好きの人、小さいお子さんからお年寄りまで色々な人と挨拶したり話したり出来ます。また散歩の際に普段は目の行かなかった足元の草花とか



写真—1



写真—2



写真—3

季節のちょっとした変化も感じられるようになりました。我が家にワンコがいなければできなかったことばかりです。今では顔なじみも出来てワンコとの散歩の楽しみも増えました。もちろん我が家のワンコもいっぱいワンコ友達が増えました。たまには叱られたり、吠えられたりはしますが、その時は私も一緒に謝ったりしています。ワンコ共々まだまだ修行中です。ワンコは人のようには喋れませんが飼い主はもとより色ん

な人とコミュニケーションがとれます。なぜだろう？と考えます。見た目の愛くるしい仕草や表情もそうですが、何より実直というか真っ直ぐというか正しい表現方法が見つかりませんが、ワンコは今この瞬間を精一杯一生懸命に生きています。過去の事は経験値だけでこれっぽっちも考えていません。もちろん後悔もないと思います。未来の事を考えることもせず、強いて言うならば今を精一杯楽しむために今を一生懸命にすることかもしれません。私自身もこの事は大変勉強になります。過去を後悔する事で振り返らない、起こってもいない未来の不安を考えて何も出来ない事。私が仕事で携わっている ICT の分野も初めての仕事が多くリスクや不安が先に立つと中々前に進まなくなる。私が不安になると周りにも伝わる。我が家のワンコのように今を一生懸命、楽しく、精一杯やっていたら自然とコミュニケーションがとれて仲間も増え一人ではできない事も仲間たちと一緒に乗り越えられるだろう。我が家族になったワンコがしてきたように。

—みやざき ひろき 西尾レントオール(株) 四国 ICT 施工推進課—

